

薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会（関東会場）

10月17日(火)、TKP大宮駅西口カンファレンスセンターにおいて「薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会」が開催された。

札幌、仙台に続き本年度3回目の開催であった。

(今後の予定は「[薬用作物産地支援協議会](#)」のHP参照)

会場には、都県・市町村の行政関係者、生産者、企業など各分野から51名が参加し、説明会と個別相談会の2部構成で実施された。



【説明会場】

説明会では次の内容が説明された。

- (1) 薬用作物を対象とした補助事業等について
- (2) 漢方製剤等の現状等について
- (3) 薬用植物の研究及び種子・種苗について
- (4) 薬用作物の需給情報について

農林水産省
厚生労働省
国立研究開発法人 医薬基盤・健康・栄養研究所
薬用植物資源研究センター
日本漢方生薬製剤協会



【農水省 生産局
三澤とあ子 専門官】



【厚労省 医政局
松野強 課長補佐】



【薬用植物資源研究センター
川原 信夫 センター長】



【日漢協生薬栽培部会
松葉 知浩 部会長】

説明会後の質疑応答では、出席者から具体的な内容の質問がなげかけられ、講演者が一つひとつ丁寧に回答していた。

◆参加者からの主な質問

- ・補助事業の対象となる薬用植物は何か
- ・同一産地国における同一生薬なのに価格差が大きいのはなぜか
- ・中国産生薬がコスト有意なのに、なぜ国内栽培を振興するのか
- ・中国産と日本産の価格差を埋める手立ては有るのか
- ・実績のある薬用作物栽培地を教えてほしい
など



【質疑応答】



【報道関係者会見】

相談会終了後、報道関係者を対象に会見が行われた。

◆記者からの主な質問

- ・ブロック会議そして昨年の相談会との感触の違い
- ・国の薬用作物支援関連対策の内容
(追加対策など)
- ・生薬購入価格帯および増産を希望する会社数を公開した理由
- ・種苗提供の方法や農薬指定など今後の課題
など

～関連記事～

[「日本産主要生薬の希望取引価格帯」など初の報告](#)
[「薬用作物の産地化に向けた地域説明会および相談会」開催\(札幌\)](#)